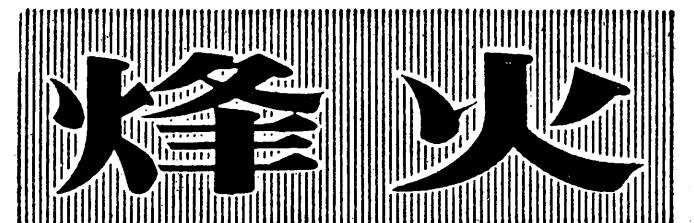


☆帝国主義の侵略反革命を粉碎し全世界の帝国主義を打倒せよ！ スターリン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命—世界プロ独立共産主義を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

1985年
8月30日
第364号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫



中曾根の靖国公式参拝弾劾！

八月一五日、日帝・中曾根は国内外の反対の声をおしきって靖国神社への公式参拝を強行した。

「戦後政治の総決算」を強弁する中曾根は、この靖国神社公式参拝に先立ち、防衛費G.N.P比一名の枠をとりはらうなどまさに戦争とファシズムの道をつきすんでいる。「戦後政治の総決算」は、臨教審を通じた「愛国心」教育をはじめ、もはや「戦後民主主義」のことごとくを破壊しつくさんとしている。

日帝・中曾根の急ピッチな戦争とファシズム準備を武装蜂起—プロレタリア独裁の勝利で粉碎せよ！

政党再編・労戦再編攻撃の嵐のなかから

党と陣形の前進かちとれ

本年五月、全民労協は連合体移行問題で「中間報告」を発表した。これによつて労働戦線の帝国主義的再編は再び大きく動きはじめた。七月の総評大会ではこの「中間報告」を受けて「八〇年代中の労働界全体の統一（全般的統一）の合意づくり」が、内部に不協和音を残しながらも確認された。

一方このような「労戦統一」の動向と歩調をそろえて社会党は、「国民党」への転換をかけて党綱領「新宣言」を六月に発表した。労戦再編、政党再編はブルジョアジーの「戦後政治の総決算」＝戦争とファシズム準備の環をなす攻撃である。戦後の階級闘争において一定の影響力を保持しつづけてきた社会党・総評は、この攻撃を前にして白旗をかげ、帝国主義社民、帝国主義的労働運動への道を転落していっている。社会党・総評に依拠して展望を立てる部分はすべて彼らの誤りを共有することになるだろう。

われわれはこのような全体情況のなかから、プロレタリアートの革命的前衛党建設と階級闘争の前進をかちとり、階級闘争の陣形建設を全国でおすすめねばならない。

帝国主義的労戦統一の 新たな段階

全民労連結成を許すな

排除するものではない」という保革連合方針が確認され、彼らの党綱領に「民主社会主義」から社会主義を削除し、党名を変更してでもそれをやりきるという見解が内外に示された。

公明党も昨年の二階堂かつぎ出し、自民党派閥抗争への介入と自民党との連立・連合を路線化しつつある。

民社・公明、新自クなどはブルジョアジーの誘いに応じて「自民党を核とした大連合」に踏みこみはじめた。しかしブルジョアジーにとってはこれだけでは不足である。階級闘争を鎮圧し階級闘争の萌芽をも根絶しようとするブルジョアジーには、戦後まがりなりにも日本プロレタリアートの公認指導部として存在してきた社会党、日共のとりこみが必要となってきた。とりわけ、総評解体とのからみで社会党の変質・解体は、彼らにとっては焦眉の課題である。

このような状況下で社会党はどのような態度を示しているのだろうか。

社会党は一月の党大会において「ニュー社会党路線」を新たな段階にすすめ、綱領的文書として存在してきた「日本における社会主義の道」を廃棄し、事実上の新綱領である「新宣言」を次期大会で採択する方針をうちだした。

六月に発表された「新宣言」は、第一に社会党の性格規定を旧来の階級的大衆政党から「さまざまな階級に属し多様な価値観をもつ国民の多数に支持を求める」国民政党へと転換した。第二に「新宣言」は、現在のソ連、東欧型の「社会主義」を右翼的に批判しつつ、社会主義を「社会のさまざまの害悪を人間的立場（ヒューマニズム）から改革していく運動とその過程」と規定した。ここでは現在の社会が資本主義社会であることや、国家の階級的性格、階級対立の非和解性がきれいに消し去られている。この「新宣言」こそ、社会

党のこのかんの実践の集大成であり、帝国主義社民としての転落を示すものにほかならぬ。そして第三に「新宣言」は、以上の結果として従来の社公民路線から一步踏みだして、自民党をふくむ保革連合にすすむことを公言したのである。（「新宣言」への批判は烽火三六三号参照のこと）

社会党内部において、この「新宣言」にいたるさまざまな下部からの、あるいは協会派からの批判がおこつてはいるが、いずれにしても「新宣言」の採択と、これに連動した原発承認、自衛隊憲合法論にもとづくその容認、行革の追認、対韓政策の見直しなどの一連の政策変更は避けられない。社会党もまたブルジョアジーの思つぽにはまりこいつつある。彼らは響影下にある数百万のプロレタリアート大衆をブルジョアジーに売り渡そうとしているのだ。

社会党のいっそうの右転落は、戦前の社会民衆党（民社党、社会党の前身）の解党、大政翼賛会への合流に比すべき事態として存在する。戦前、共産党の非合法化を条件として許された社会大衆党をはじめとした中間諸政党は、日本帝国主義のアジア・中国侵略の開始のなかで、「反共産主義」と「現実的政策」をかかげ、政権政党にすり寄ることによって延命をはかろうとした。一九三一年の中国東北部侵略の直後に彼らは、それまでの主張であった戦争反対のスローガンを降ろし、「聖戦支持」「滿蒙の権益を困窮した労農大衆に分け与えよ」という主張をかけて侵略戦争に協力していく。彼らもまた政権政党にすり寄るにさいして、「中間無産政党の合同」やこれと連動した「労働戦線の統一」をかけ、最終的にはみずから党を解散して大政翼賛会に合体していった。

社会党はふたたび同じ誤ちをくりかえそうとしているのである。

國主義労働運動への屈服はあと戻り不可能なものである。社会党・総評の復権はもはや望んだとしてもありえない。多くの左派といわれる先進的労働者人民のなかにすら、いまだ社会党的政治的復権に期待をかけ、総評再生に望みを託す人々が広範に存在している現在、このことはとくに強調される必要があるだろう。

社会党・総評が戦後階級闘争において一定の権威を保持することができたのは、日本資本主義の復興と高度経済成長という物質的条件を背景にして、朝鮮戦争時をピークとした五〇年代階級闘争、六〇年の三池、安保闘争、六〇年代後半のベトナム反戦闘争などが強まっている。われわれはこれとたたかい、

プロレタリア階級闘争の陣形を構築せよ

全民労協の中間報告、社会党の新宣言に示される労戦再編、政党再編の新しい段階は、われわれに次のことを示している。

社会党・総評が一定の政治力をもってブルジョアジーと対抗し、プロレタリアート人民の闘争エネルギーを特殊に吸合することでのきた時代は完全に終えんした。社会党・総評の政治的影響力は大巾に後退し、かわってブルジョアジーとの階級協調を党派性とする一群の小ブル野党連合と一大反共ナショナルセンターがプロレタリアートの前に登場し、社会党・総評は傘下のプロレタリアート大衆を引きつれてこれに合流しようとしている。

社会党の帝国主義社民への転落、総評の帝

どうしつづく労働者人民のたたかいに押しあげられた結果であり、けつして彼らの路線の正しさゆえではなかった。むしろ社会党・総評の議会主義、経済主義、戦闘的組合主義は闘争の発展をおしとどめ敗北させ、民社・同盟・JCにその基盤を掘りくずせる役割りを果たしたのである。七三年の石油危機と「減量経営」攻撃の開始、七五年のストライキの敗北を契機に社会党・総評は右旋回をはじめ、以降、民社・同盟への屈服、譲歩、そして路線上の同一化を深めていく。

社会党・総評がもはや階級闘争の発展にとって何の積極的役割りも果たせなくなつたまま、先進的労働者はこれにかわる党と陣形の建設に踏みださねばならない。ところで社会党を「社会主義をたな上げした」と批判し、連合・連立の動きを「反共野党の新与党化」と批判する日本共産党は、社会党・総評にかかる主体たりうるだろうか。否である。あらためて次の二つの点について批判としてふれておきたい。第一に彼らの資本主義にたいする綱領的立場はその打倒ではなく改良であつて、これは社会党ともその他の右翼潮流とも共通している。第二にブルジョア民族主義ゆえに彼らは日本帝国主義にたいする闘争を日本プロレタリアートに呼びかけることができず、他国の、とりわけアジア諸国のプロレタリアート人民に裏切り行為をおこなつてはいる。資本主義・帝国主義を免罪するこのようないいが、それがアジア諸国に組織することはけづしてできない。

労戦再編、政党再編の新たな段階の開始にさいして、われわれは全国のたたかう労働者人民にむかって次のたたかいに決起するよう訴える。

第一に「保革連合」の道に走る社会党をふくむ小ブル議会政党の犯罪性を暴露し、日本大衆的政治闘争を復権し、全国にプロレタリア政治統一戦線を建設することである。われわれの政治闘争は、市民主義者や急進民主主義者のそれと異なり、プロレタリア大衆の階級形成と階級的結束に寄与するものでなければならない。また日共のそれとも異なりプロレタリアートの国際主義的連帯の精神につらぬかれたものでなければならない。

第二に社会党・総評によつて放棄されつゝある大衆的政治闘争を復権し、全国にプロレタリア政治統一戦線を建設することである。われわれの政治闘争は、市民主義者や急進民主主義者のそれと異なり、プロレタリア大衆の階級形成と階級的結束に寄与するものでなければならない。また日共のそれとも異なりプロレタリアートの国際主義的連帯の精神につらぬかれたものでなければならない。

第三に全民労協（全民労連）と対決し、階級的労働運動の陣形を強化、拡大することである。全民労連の結成準備とともに、たかう単組・単産や地域組織への激しい攻撃が強まっている。われわれはこれとたたかい、

7・14

三里塚現地闘争に決起

成田用水・二期着工攻撃に反撃

階級的労働組合の不斷の前進に支えられた階級的労働運動の陣形を、この右翼再編の風の時代にこそ発展させていかねばならない。

第四に以上のたたかいを統合し、全国主要都市に党と結合した階級闘争の陣形を構築す

ることである。「階級闘争の陣形」は、プロレタリア政治統一戦線と階級的労働運動を輪として形づくられ、党はこれを革命の勝利（武装蜂起—プロレタリア独裁樹立）にむかつて領導する。この事業は革命の勝利にむけ

たプロレタリアートの主体的準備戦である。以上の任務を確認し、全国のたたかう労働者人民は、労戦再編、政党再編の逆流に抗し、共産主義者同盟（全国委）とともに決起せよ！

七・一四三里塚現地闘争は、いよいよ煮つまる成田用水攻撃、九・一六東峰十字路判決—重罪攻撃そして二期着工に抗して反対同盟の団結を強化すべくたかわれた。

七・一四闘争は、連月行動の第一弾である。引きつづく現地闘争に全力で決起し、二期一用水阻止闘争のただなかで、三里塚闘争のプロレタリア的発展をかちとれ！

反対同盟先頭に立つ

七月一四日前八時、横堀の現闘本部前に集合し、自主耕作地のジャガイモ収穫、木の根かんがい用ため池付属施設の作業に分かれ、闘本部前に集合し、自主耕作地の現地緊急行動は開始された。

自主耕作のジャガイモ収穫の行なわれた横堀の畠は、木の根一横堀間の警備道路の予定地にあり、今秋にも着工がもくろまれている警備道路を阻止する拠点である。

一町歩近い畠を同盟・支援約三〇〇名がうずめ、みるみるうちにジャガイモを掘り出し、山と積み上げてゆく。二時間たらずで掘り上げ、選別・袋づめが行なわれ、注文に応じて配分されていった。

この日に先だって一〇日、この自主耕作地においてさつま芋が反対同盟と現地支援の手で植えられた。ところがその日の夜、何者かが植えられたばかりのさつま芋の苗をひき抜き、マルチビニールをさがすという暴挙をはたらいたのである。この犯人は明らかである。現場に残っていた足跡から機動隊にまちがない。

警備道路予定地に営まれ続けてきた自主耕作の破壊を、権力、公

団は執拗にねらっているのであり、帯という政治的地域の歴史的意義をふまえ、しかしながら農民階級としての階級的基盤の狭さにつけ込んだ敵の切り崩し攻撃と対決するためにも、三里塚闘争を日帝打終了し、成功をかちとった。

梅雨明けのむし暑さの中での作業終了後ただちに午後の集会に向けて現闘本部前に結集が開始された。午後一時半、石井武さんの開会宣言により集会が始まった。熱戦反核のたたかいと結びつけて、三里塚闘争に勝利しなければならない」と訴えた。続く菅沢事務局長の基調報告では、「農民を分断し、水の国家支配をねらう成田用水には絶対反対。八五年度に入つて二期着工に向けた権力、公団の攻撃が強まつており、臨戦体制を作らないといけない。夜中に電話して緊急の結集を呼びかけるような場合も起きるかもしれないが、そのときはよろしくお願ひします」と今後の緊迫する情勢に向けた体制作りが呼びかけられた。

続いて、二期用地内の小川源さんが、「二期阻止のため、一坪も売らない」と固い決意をのべた。

さらに、菱田において成田用水に反対する地権者から辺田部落の小川剛正さんが、「成田用水は二期工事のなしくずし的着工であり、断固たたかっていく」と訴えた。

この後、日本原農民の文書アピールなどがなされ、その後現地に團結小屋を置く十団体の決意表明が行なわれた。



三里塚現地緊急集会に結集した全国の労農学者
(7月14日 三里塚現闘本部前)



(8・5反弾圧集会)

どまるのか、それとも反帝社会主義を掲げプロレタリア階級闘争の一翼として発展させるのかという根本的な点で多くの党派が境界を見せており。この点をめぐる路線闘争は一層重要な状況である。このような特徴点を示して七・一四緊急行動は、関東を中心に行なわれる。

一四緊急行動は、関東を中心に行なわれる。

月ニカラグア革命六周年 7革命連帶連続行動闘う

関西

七月十九日、ニカラグアは六回目の革命記念日を迎えた。オルテガ大統領はこの日、「暴力には決して屈しない」というアピールを発し、米帝の軍事侵攻の危機の増大の中で、革命を防衛し発展させていく決意を明らかにした。

この中で、七月二〇日、ニカラグア革命六周年、エルサルバドル革命勝利を掲げたラテンアメリカ連帶全関西集会が大阪・中の島公会堂においておこなわれた。

関西L・A連呼びかけの集会実行委の下に一八〇名の労働者・学生・活動家が参加した。集会は映画「勝利への決意」で幕を開け、つづいて「米国の経済封鎖について」と題する講演がおこなわれた。この中では現下の米帝によるニカラグアへの経済封鎖がこの革命に及ぼす影響を明らかにするとともに、全世界の労働者の援助がますます不可欠になつていていることが訴えられた。

階級的労働運動の拠点である自立労働組合連合に対して権力一資本一体となつた組合つぶしが激化している。この攻撃をうしくだき展をかちとらねばならない。

七月三日、午前六時五〇分に京都府警・宇治署は二〇〇名以上の制服警官を投入してタカラブネ労働会館をはじめ車輛を含む六カ所にガサ入れを行ない、労組書記長を「暴行傷害」のデッチ上

自立労連(タカラブネ) に大弾圧

7・31

の弾圧に呼応した卑劣な策謀との大

げで不當にも逮捕された。

自立労連は、この権力の介入と

この敏速なたたかいのなかであせり

た数名の反組合分子は八月五日、自

立労連に脱退届を出し、夕方には京

都の夕方には、タカラブネ構内で緊急の抗議集会が開かれ、その後書記長が留置されている宇治署に

いに精力的にたちあがつた。三一

日の夕方には、タカラブネ構内で

合結成通知を出そうとしたが、それ

はまったく腰の入らないものであつた。自立労連は会社正門前に陣どつて彼らと対峙した。自立労連組合員

の怒りを込めた「御用組合は帰れ」

のシュプレヒコールは二組と同盟を

名の結集をもつてかちとられた。田用水攻撃をもつて反対運動の反対同盟はさらに、八月一八日に緊急行動を予定している。そして九月一五日は、東京において東峰裁判の勝利に向けた集会が行なわれ、一〇月二〇日には現地総決起集会が計画されている。

日帝一公団は、一方において成

今こそ、日本帝国主義の侵略反革

名の結集をもつてかちとられた。田用水攻撃をもつて反対運動の分断一条件派育成をねらいつつ、四月には初の二期予算を成立させ、以降、公団の機構改革や警備体制の再編成などを進めており、今秋裁判の勝利に向かって集会が行なわれ、一〇月二〇日には現地総決起も木の根一横堀間の警備道路の着工を宣言している。

港の粉碎に向け全国陣形を築こう。そして、武装蜂起—プロレタリア独裁権力樹立—社会主義革命の実現に向かうプロレタリア階級闘争への三里塚闘争の大合流を実現しよう。今夏、今秋現地攻防に全力で決起しよう。

このあと集会実行委から基調報告がおこなわれ、ニカラグア革命の中米侵略へののり出しを暴露するとともに、日帝本国の労働者人

民にとってニカラグア連帶は自國帝国主義打倒をぬきにしてありえ

たる党派闘争・論争に責任をとり切

ることである。もう一面は、わが国

プロレタリアートの最深部にまで他

国社会主義革命と前衛党建設との

連帶をうちこみ、武装蜂起とプロ独

隊列をととのえて領事館に向った。

許しがたいことに、七・二〇集会の実行委抗議団の前に多数の

機動隊・私服がたちはだかり、内

部への立入りを不当に阻止せんと

した。のみならず、抗議集会に移

ろうとした部隊に市条例違反をた

れてにとつた逮捕の恫喝をもつての

ぞんできたのである。われわれは

等から自己のたたかいの報告と連

絡の意志が表明されるなど最後ま

で熱気のある集会がたたかいぬかれた。

その他連帶アピールには、大き

な焦点になりつつある指紋押捺問

題をめぐつて、あるいは韓国政

治犯救援運動の戦線から、また民

族解放・独立に連帶するグループ

等から自己のたたかいの報告と連

絡の意志が表明されるなど最後ま

で熱気のある集会がたたかいぬかれた。

本集会での行動提起を受けて、

一日おいた二十二日には、神戸・

アメリカ領事館への抗議行動がおこなわれた。三ノ宮・花時計前に



(7・20全関西集会)

米軍用地特措法攻撃粉碎！

基地永久固定化のための土地強奪を阻止せよ！



未契約米軍用地の裁決申請について明らかにする施設局の弘法堂局長（右）

裁決の申請について

8月5日 執事防衛施設局

施設区域	所有者数(名)	筆数(筆)	面積(千m ²)
伊江島補助飛行場	27	179	389
嘉手納弾薬庫地区	20	46	51
読谷補助飛行場	1	1	1
キャンプ・シールズ	2	3	3
トライ通信施設	15	22	24
嘉手納飛行場	1,879	86	104
々 （一坪）	(1,843)	(3)	(2)
キャンプ桑江	5	22	20
キャンプ瑞慶覧	10	27	15
普天間飛行場	5	8	14
牧港供給地区	8	23	10
那覇港湾施設	3	21	15
陸軍貯油施設	4	8	6
	(1,843)	(3)	(2)
計12施設	1,979	446	654

注 (1) カッコは、内数で、いわゆる一坪共有に係るものである。
(2) 面積については、四捨五入によっているので計が符合しない。

本年八月五日 朝鮮防衛施設局は江原県
収用委員会に対して、未契約米軍用地の
強制使用裁決を申請した。左の表はその
一らんである。

固定化を何よりも優先させ、沖縄侵略反革命前線基地の永久化を実現するべく、そのもとに制約されるべきというこの土地接收攻撃を、われわれは満腔の怒りをもって打ち砕かねばならない。八年「米軍用地特措法」再発動を天皇来沖もろとも粉碎せよ。

防衛施設局長は「現在日本には憲法体系と安保体系の二つの法体系がある。憲法体系には安保体系は優先すると考えている」と臆面もなくいい放っているのだ。安保体制の堅持のためには基本的権利を否定して土地を強奪するといふこの攻撃は、「有事に際しては現行法を超越して人的・物的動員を可能たらしめる」という有事体制の先取りそのものである。

この「米軍用地特措法」再発動攻撃でもう一つ指摘せねばならない

同時にこの攻撃は有事体制の先取りともいうべき攻撃としてある。軍事的要請の前には人民の権利などを考慮するに足りないというのである。実際、強制使用手続きの開始を糾弾する人々に対し、那覇防衛施設局長は「現在日本には憲法体系と安保体系の二つの法体系がある。憲法体系には安保体系は優先すると考えている」と臆面もなくいい放っているのだ。安保体制の堅持のためには基本的権利をも否定して土地を強奪するといふこの攻撃は、「有事に際しては現行法を超越して人的・物的動員を可能たらしめる」という有事体制の先取りそのものである。

日帝は軍事基地に土地を提供することを拒否しつづけている反対。戦地主などの未契約米軍用地六十五万四千m²を、八七年五月以降も引きつづき強制使用するために「米軍用地特措法」再発動攻撃を打ちおろしてきている。八月五日、那覇防衛施設局は、県収用委員会に対して二十年という長期においても強制使用裁決を申請した。これはもはや実質的な土地接收以外の何ものでもない。

序次長は二二十年という使用期間の定めのある日米安保体制における基地の定期的・継続的な使用の要請を踏まえたものとのべた。すなわち安保体制の堅持こそが至上課題であり、沖縄基地はその重要環として必ずや永久維持すべきものであるというのだ。

「米軍用地特措法」再発動攻撃とは、日米安保体制の戦略拠点たる沖縄侵略反革命前線基地の強化・恒久化攻撃に他ならない。

一歩も近づかせなかつた。二組はビラをまくが、それらはたちまち紙つぶてとなつて彼らに投げかえされるというありさまである。

東、中部、神戸の各支部から連日組合員が休日を返上し組合本部にかけつけ昼夜を分かたぬ活動が行なわれている。二組はこのたたかいの前に崩壊を始めている。

八月五日には、この攻撃とたたかわんと洛南労組連をはじめとした地域の労組員の参加もえて、四〇〇名の結集で集会がかちとられた。

今回の自立労連にかけられた攻撃は、國家権力・資本一体となつた計画された攻撃である。この攻撃にうちかち、階級的労働運動の拠点＝自立労連を防衛せよ！

第13回

日韓定期閣僚会議阻止せよ

南朝鮮新植民地支配の完成化ねらう日本帝国主義

①指紋押捺、在日韓国・朝鮮人処のことが討議予定とされている。

今回の大韓定期閣では、およそ次

かわれ、南朝鮮では、学生・労働者者の反帝民族解放闘争が激化し、軍事独裁政権の弾圧が開始されている。これが第一三回目を迎える大韓定期閣の背景である。

今回の大韓定期閣では、およそ次

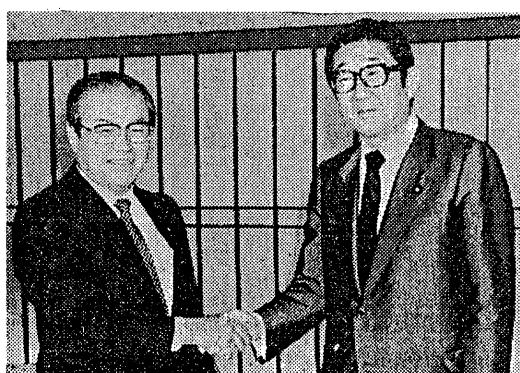
かわれ、南朝鮮では、学生・労働者者の反帝民族解放闘争が激化し、軍事独裁政権の弾圧が開始されて

記念キャンペーんで一層美化されようとしている。今回の会議は日本帝の南朝鮮新植民地支配の虚言で正当化され、いま再び

記念キャンペーんで一層美化されようとしている。今回の会議は日本帝の南朝鮮新植民地支配の完成段階へ突入すべき、最初の実務執行会談というものである。そして一方で、在日韓国・朝鮮人民の外登法改正要求が高まり、七月末で二千数百名もの指紋押捺拒否がたたかわれ、南朝鮮では、学生・労働者者の反帝民族解放闘争が激化し、軍事独裁政権の弾圧が開始されて

記念キャンペーんで一層美化されようとしている。今回の会議は日本帝の南朝鮮新植民地支配の虚言で正当化され、いま再び

記念キャンペーんで一層美化されようとしている。今回の会議は日本帝の南朝鮮新植民地支配の完成段階へ突入すべき、最初の実務執行会談というものである。そして一方で、在日韓国・朝鮮人民の外登法改正要求が高まり、七月末で二千数百名もの指紋押捺拒否がたたかわれ、南朝鮮では、学生・労働者者の反帝民族解放闘争が激化し、軍事独裁政権の弾圧が開始されて



第13回 日韓定期閣僚会議

会議の真の目的

今回の日韓定期閣は、戦後四〇年、日韓基本条約二〇年という歴史的時期に行なわれる。昨年の全斗煥来日・天皇会談での「不幸な過去は遺憾」声明によって、日帝の南朝鮮新植民地支配が「日韓新時代」の虚言で正当化され、いま再び記念キャンペーんで一層美化されようとしている。今回の会議は日本帝の南朝鮮新植民地支配の完成段階へ突入すべき、最初の実務執行会談というものである。そして一方で、在日韓国・朝鮮人民の外登法改正要求が高まり、七月末で二千数百名もの指紋押捺拒否がたたかわれ、南朝鮮では、学生・労働者者の反帝民族解放闘争が激化し、軍事独裁政権の弾圧が開始されている。これが第一三回目を迎える大韓定期閣の背景である。

来る八月二九、三〇日の両日、第一三回目の日韓定期閣僚会議がソウルで開催される。わが国労働者人民は、この日韓定期閣の反革命的意図を見抜き、南朝鮮で開始されているプロレタリアート人民の前衛党建設と反帝民族解放闘争に連帯し、自國帝打倒ープロ独立樹立を戦取するプロレタリアート国际主義で応えなければならない。

は、日帝による対韓資本投下、すなわち四〇億ドル「援助」の使途を具体化するのみである。結局のところ、全斗煥来日時に進展しなかったように、この二国問題は、日韓支配階級が南朝鮮人民の目を

欺くためのギマンの産物に他ならぬ。この日韓定期閣の真の目的ではないのだ。では、この日韓定期閣の実動体制にある。七八年の第一〇回定期閣で軍事協力を重点討議し、

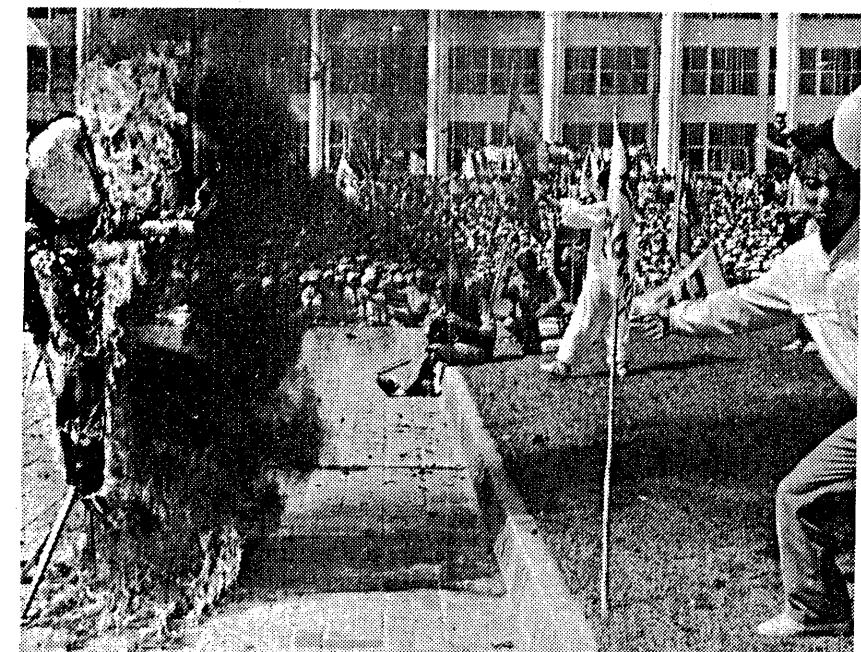
開いて以降、第一二回では、「朝鮮半島の平和と安定の維持」に努力するといった日韓間の安保共有が確立された。すなわち、対ソ・共和国敵視の反共軍事協力をもつて、南北分断固定化策動に日帝が直接加担していくのである。軍事費GNP一兆円の実質突破、防

衛五ヶ年計画Ⅱ五九中業の実質化、専守防衛から抑止力論へと日帝の侵略反革命戦争準備が、着々と南

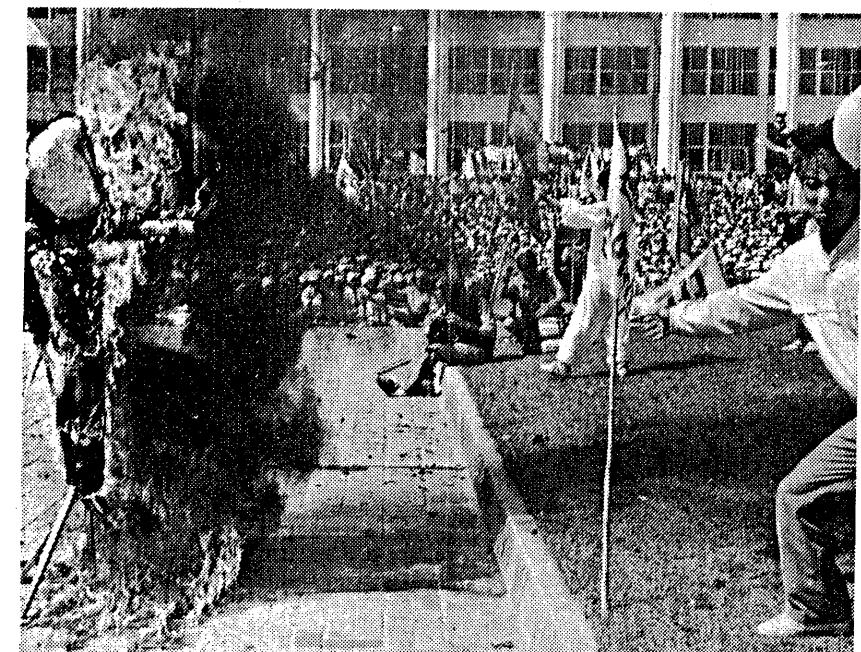
朝鮮有事を想定し、まさに実動・臨戦態勢として築かることにあることである。本年上半期ですでに

第一〇億ドルの貿易赤字増加など、経済成長とは裏腹に増す従属化の

中で、日本金融資本は、韓国製品の国際信用を保つために円借款の大規模な投入を行なっている。韓



光州蜂起5周年を記念する反政府集会で全斗煥の人形を焼く学生たち 5月17日 全南大)



問題、②先端技術移転、③貿易逆調といった諸点である。これら二国問題は、四四〇億ドルにものぼる対外債務をかかえて経済危機に苦しむ全斗煥政権が南朝鮮人民を欺き、政権延命に持ち出しているにすぎない。とりわけ、指紋押捺、在日韓国・朝鮮人待遇問題では、日帝法務省の五・一四通達とその実施で治安管理としての現外登法、指紋制度を手離すことは決してない。むしろ、「一回限りの押捺」をおわす位で、在日韓国人三世以降の法的地位未確立問題を焦点にして、在日韓国・朝鮮人を一層の分断と差別・同化攻撃にたたき込まんとしている。また、先端技術移転、貿易逆調問題

は、日帝による対韓資本投下、すなわち四〇億ドル「援助」の使途を具体化するのみである。結局のところ、全斗煥来日時に進展しなかったように、この二国問題は、日韓支配階級が南朝鮮人民の目を欺くためのギマンの産物に他ならぬ。この日韓定期閣の真の目的ではないのだ。では、この日韓定期閣の実動体制にある。七八年の第一〇回定期閣で軍事協力を重点討議し、

開いて以降、第一二回では、「朝鮮半島の平和と安定の維持」に努力するといった日韓間の安保共有が確立された。すなわち、対ソ・共和国敵視の反共軍事協力をもつて、南北分断固定化策動に日帝が直接加担していくのである。軍事費GNP一兆円の実質突破、防

衛五ヶ年計画Ⅱ五九中業の実質化、専守防衛から抑止力論へと日帝の侵略反革命戦争準備が、着々と南朝鮮有事を想定し、まさに実動・臨戦態勢として築かることにあることである。本年上半期ですでに

第一〇億ドルの貿易赤字増加など、経済成長とは裏腹に増す従属化の

中で、日本金融資本は、韓国製品の国際信用を保つために円借款の大規模な投入を行なっている。韓

現在、在日韓国・朝鮮人を中心とする指紋押捺拒否闘争が大きく盛り上がり、日帝本国内全人民が指紋押捺問題に引き込まれている。われわれは指紋押捺・外登法の抜本改正闘争を支持し促進しなければならない。しかし同時に、このたたかいを人権問題・民主主義一般の中に閉殺できない。これを日帝の南朝鮮新植民地支配を打破するプロレタリアートの政治要求へと発展させねばならない。そのためこそ民族排外主義とたたかい、

在日韓国・朝鮮人民との階級的共同闘争をもって、歴史的隔絶を突破することが、すべての先進的労働者人民に問われている。

すべての先進的労働者人民は、指紋押捺闘争を階級的に牽引し、南朝鮮労働者人民の苦闘に連帯して、日韓定期閣を断固粉碎せよ。

第二には、日帝の南朝鮮新植民地支配を完成すべく、金融資本による全産業の本格的独占をねらう

ある。今年末の日韓練習艦隊の相互訪問は、まさにこのことを裏づけるものである。

第一三回の日韓定期閣の本質は、ヨアジーの手に握られ、搾取と収奪の度合を深めていくのである。

第一三回の日韓定期閣の本質は、まさにかかる南朝鮮新植民地支配を完成化させるための、実務執行会談という徹頭徹尾の日帝の野望に満ちあふれたものなのである。

第一三回の日韓定期閣の本質は、まさにかかる南朝鮮新植民地支配を完成化させるための、実務執行会談という徹頭徹尾の日帝の野望に満ちあふれたものなのである。

第一三回の日韓定期閣の本質は、まさにかかる南朝鮮新植民地支配を完成化させるための、実務執行会談という徹頭徹尾の日帝の野望に満ちあふれたものなのである。

